

平成30年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会 派 名	市民ネット・むろらん
議 員 名	水江 一弘・児玉 智明・佐藤 潤・小田中 稔・高橋 直美
調査実施年月日	平成30年4月17日
調査先 自治体名等	鳥取県倉吉市
調 査 項 目	倉吉市中心市街地活性化基本計画「円形校舎活用事業」について
調 査 目 的	旧絵鞆小学校円形校舎活用に向けての先進事例調査すること
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口：47,496 人(H28.10.1現在) 行政面積：272.06 km²</p> <p>2 視察内容 ①旧明倫小学校円形校舎活用事業について ②現地視察(フィギアミュージアム円形劇場) 本市では、旧絵鞆小学校円形校舎の2棟保存について議会論議が行われているところであり、円形校舎活用事例について鳥取県倉吉市旧明倫小学校の活用までの経緯と現在の状況について行政調査を実施した。</p>
感想(まとめ) 本市へ生かせること等	<p>倉吉市旧明倫小学校円形校舎は、本市旧絵鞆小学校円形校舎と同じ建築家坂本鹿名夫氏の設計によるもので、昭和30年に建設され、国内に現存する中で最も古い円形校舎として知られる。 明倫小学校が移転することとなった昭和52年まで校舎として使用され、その後、地域活動拠点や放課後児童クラブ施設として活用がされた。 倉吉市としては、当時の状態に近いまま残る歴史的に貴重な建築物として認識されていたが、施設の老朽化や将来、行政として使用の見込みが無いことなどから解体の方針を定め、平成26年5月議会に於いて解体に関する予算が提案された。 市民からは、校舎の保存活用を希望する陳情や地域開発のため解体を希望する陳情など、様々な意見が寄せられ、一時は解体も検討された施設だが、同年度予定していた「倉吉市中心市街地活性化基本計画」を策定する中で、地元からの保存活用等の意見を考慮し、再度検討した上で、活用及び解体の方針を出すよう予算凍結の附帯決議がなされた。 予算凍結から一年後の平成27年6月、円形校舎の活用を含めた「倉吉市中心市街地活性化基本計画」が内閣府事業の認定を受ける。</p> <p>倉吉市の中心市街地活性化施策は、平成26年12月、海外でも事業展開を行うフィギュアメーカー(株)グッドスマイルカンパニーの製造工場を国内で初めて誘致したことが大きな転機となる。 企業コンテンツを活用した事業メニューの共同開発や観光施策として「レトロ&クールツーリズム」を柱とした、ポップカルチャーの活用による世界に直結するまちづくりを推進することとなった。 新たな観光資源の創出としては、倉吉市の観光資源、白壁土蔵群・赤瓦が舞台モチーフとされるデジタル配信コンテンツ(「ひなびた♪」)と連携した、全国で初めての架空都市との姉妹都市提携により、20代男性など、これまでにない観光客層の獲得に繋がっている。 また、鳥取県による地域資源「まんが」(名探偵コナン、ゲゲゲの鬼太郎の作者は鳥取県出身)をつうじ、観光や産業などの商業の振興や、担い手となる人材育成を目指す取り組み「まんが王国とっとり」など県の施策展開もあり、フィギュアメーカー(株)海洋堂から、地域で新たに会社を設立し円形校舎を活用したフィギュアミュージアム開設の提案を受け、民間商業施設としての整備計</p>

画が策定されることとなる。

平成28年3月、提案を受けた保存を願う市民等が円形校舎の活用を中心とした地元主体の商業まちづくりを行うため、主旨に賛同した地元住民、企業、関係各団体との協力・連携により、30名以上の地元株主を確保し、株式会社円形劇場を設立する。

同年6月には、円形校舎の無償譲渡が議会で可決。

翌、平成29年度には、経産省助成事業「地域・まちなか商業活性化支援事業(中心市街地再興戦略事業)」の採択を受け、耐震補強や展示スペースの改修、エレベーター設置などの施設整備費補助を受け(国助成1/2、地元負担1/2)、平成30年4月7日、国内初の円形校舎を活用した、フィギアミュージアム円形劇場がオープンした。

商業施設としてリニューアルされたフィギアミュージアム円形劇場は、(株)グッドスマイルカンパニー、(株)海洋堂、米子ガイナックス(株)の3社との協力体制による先進的な取り組みとして、ポップカルチャーの聖地となることが期待されている。

・ 1階 (株)グッドスマイルカンパニー

人気作品からレアものまでコレクター作品展示や様々なイベント・企画展、フィギュアやグッズ販売など「買う・遊ぶ」スペース

・ 2階 (株)海洋堂

ジャンルごとの多彩な展示スペースや見どころポイント解説など「観る・学ぶ」スペース

・ 3階 米子ガイナックス(株)

塗装体験やジオラマ作り、造形師育成ワークショップなど「作る・育てる」スペース

円形劇場には一部、昔の教室を再現したスペースもあり、開校当時の写真を展示するなど、地域の財産としての保存活用の原点が残されている。また、地域連携による多種多様なイベントを実施し、波及効果を創出する取り組みも計画されており、地域企業としての地域貢献への熱意が感じられる。

この円形劇場を中心としたエリアには行政が認定基本計画掲載事業として取得した財産の他、商業・観光地としての発展の可能性が開けたことからカフェやゲストハウスの開業など、民間による投資・経済活動も活性化をみせており、市としては想定以上の波及効果が現れているとのことであった。

円形校舎の民間発想での保存活用が商業・観光資源を作り出した成功モデルとして大いに期待の持てる事例であった。

本市の旧絵鞆小学校円形校舎は2棟が1対となった、現存する円形校舎の中でも貴重な歴史的建築物として価値は高く、また、縄文遺跡の包蔵地でもあることから、室蘭市文化財審議会に於いて2棟一体での保存がされるべきとの答申があり、市民団体等からも同様の保存要望が市に提出されている。

また、旧絵鞆小学校円形校舎は歴史的建築物としての価値が高いだけでなく、映画やTVドラマの舞台となった場所として知られており、加えて祝津地区は、道の駅「みたら」や市立水族館が隣接する地区にあり、仕掛け次第では観光資源としての活用も可能な施設であり、倉吉市の事例も参考に、十分時間をかけ議論を進めるべきと考える。